

英語環境の整備必要

盛岡・岩手発信へ機運醸成 討論会

ILC

東北誘致

県国際交流協会は14日、盛岡市盛岡駅西通1丁目のいわて県民情報交流センター（アイーナ）で、パネルディスカッション「日本岩手」を世界へ発信 東日本大震災とILC」を開き、国際リニアコライダー（ILC）の誘致へ向け市民の機運醸成を図った。

約50人が参加し、奥州市ILC国際化推進員のアンナ・トーマスさん（米国、矢巾町）、外国語指導助手のネイト・ヒルさん（オーストラリア、一関市）、県広聴広報課海外情報発信専門員のアマング・クリプスさん（米国、盛岡市）、東北ILC推進協議会の晴山睦事務局次長が討論。

外国人居住者や観光客への情報発信についてクリプスさんは「転居届は日本では常識だが、説明されないこともある。『観光客を歓迎する』とPRしても対応が不十分なら歓迎とは言えない。英語の強力な情報発信が求められる」と強調した。

トーマスさんは「外国人向けウェブサイトを読みにくい内容もある。大都市に負けてしまわないよう環境整備の整理が必要」と訴えた。



東日本大震災と国際リニアコライダーをテーマに意見を述べるパネリスト

外国人居住者や観光客への情報発信についてクリプスさんは「転居届は日本では常識だ